

コウナゴ漁況予測技術の検証

福島県水産海洋研究センター 漁場環境部

1 部門名

水産業—資源管理—イカナゴ

2 担当者

森下大悟

3 要旨

福島県水産海洋研究センターではコウナゴの水揚げ量を重回帰式により予測し、漁業関係者に対し広報を行っている。本報告では2018年の水揚げ量及びCPUEにより、予測結果の検証を実施した。その結果、CPUEにおいて著しい逸脱が確認され、水揚げ量の予測値との関係が確認されなかった。

- (1) 2018年の水揚げは豊漁と予測しており、実測値は1,076トンであった(図1)。
- (2) 森口ら(2018)において、水揚げ量の予測値とCPUEの関係性が報告されていたが、2018年には当てはまらず、大きく逸脱した(図2)。
- (3) 要因の一部として、2018年は3月～5月のコウナゴが大型であったことが挙げられる(図3)。

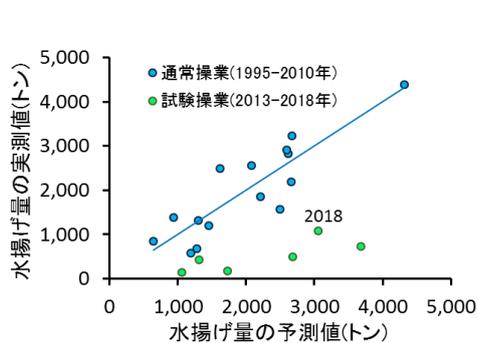


図1 コウナゴ水揚げ量の予測値と実測値

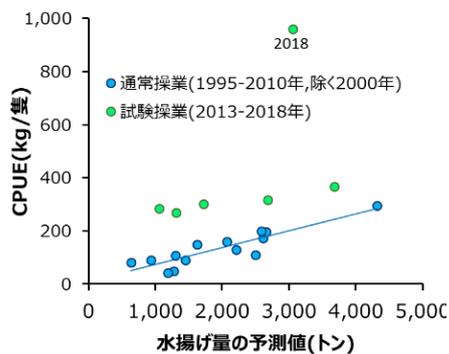


図2 コウナゴの水揚げ量予測値とCPUE(実測値)

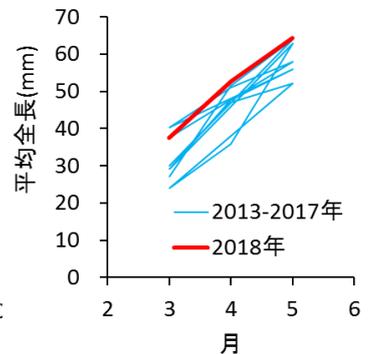


図3 各年におけるコウナゴの全長推移

コウナゴ水揚げ量予測の重回帰式

$$y = 9.35x_1 + 65.29x_2 + 0.65x_3 + 572.63$$

y : コウナゴ水揚げ量予測値(トン) x1 : 12月の新地水温(平年差積算)

x2 : 2月の海洋観測におけるChl.a濃度 x3 : 1月の漁期前コウナゴ尾数

※ 緊急時環境放射線モニタリング検体を使用して、全長を測定したものの。

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成30年度
- (2) 研究課題名 海洋基礎生産に関する研究
- (3) 参考となる成果の区分 発展見込

5 主な参考文献・資料

- (1) 平成29年度 普及に移す成果「森口隆大・真壁昂平・池川正人:コウナゴ漁況予測の検証」